

松山×LIFE ひとつも、まちも輝く、100年後の松山へ まち・ひと・しごと創生トークセッション

私は現在、陸上のアドバ
イザーとして活動していま
す。現役は北京五輪を最後
に引退し、松山で子育てに
専念することになりました
が、実家が近く、家族の支
えもありとても助かってい
ます。



元マラソン選手
土佐 礼子さん

公的支援を活用しながら 社会とのつながりを大切に

誰もが私と同じような環
境にあるわけではありませ
んが、今は働く母親を応援
する公的サポートも用意
されています。それらを活
用しながら社会とのつなが
りを大切にしてほしいです。

もともと、拠点は東京で
したが、子育てをするのに
は難しい環境だと感じてい
ました。私は自然の中でゆっ
たりと子育てがしたかった
ので、暮らしやすく子育て
支援もしっかりしている松
山は、良い環境だと思いま
す。

人口減少に歯止めをかけ、住みよい松山を
守るため策定された「松山創生人口100年ビ
ジョン・先駆け戦略」をテーマに松山で活躍
する著名人や関係者を招き2月17日、トーク
セッションが開催されました。

パーソナリティ・やのひろみさんの司会で
行われたこのトークセッションでは、先駆け
戦略で基本目標に掲げる「基盤づくり」「少子
化対策」「移住定住対策」「地域経済活性化」
「暮らしと経済まちづくり」を基に、それぞれ
の立場や経験を踏まえ、さまざまな意見が出
されました。



私は生まれも育ちも東京
でしたが、妻が松山出身だっ
たこともあり旅行で松山を
訪れたときに、その魅力を
知り松山に移住することに
しました。
現在は「いよこころサシ
大学」で「誰でも先生、誰
でも生徒、どこでもキャン



NPO法人いよこころサシ大学
学長・理事長 泉谷 昇さん

松山の魅力に気付くことが 定住につながる

パス一をテーマに、1人1
人が持つ知識、技術、経験
に価値を見いだし、みんな
で共有しようという取り組
みをしています。
松山には多くの魅力があ
りますが、意外と地元の人
はその魅力に気付いていま
せん。自分のまちに対して
無関心になるのではなく、
その魅力をみんなで共有・
発信し、人とまちをつなげ
ていくことで、「この地に住
みたい」「住み続けよう」と
いう人が増えるのではない
でしょうか。

「自分が生まれ育ったま
ちを大切にしたい」という
思いから7年前に東京から
松山に帰ってきました。ま
ずは自分の会社を立て直し
地域に必要なとされる会社
になろうと思ひ、さまざまな
事業を展開してきました。



株式会社
代表取締役社長
加戸 慎太郎さん

思い出の場所をつくり、 まちへの愛着を育てること

経済や人口の動向では、
東京も松山も抱えている問
題は同じです。ただ東京か
ら海外より、松山から東京
に出る人が圧倒的に多いた
め、新たな施策を講じなけ
ればなりません。
100年後を見据えたま
ちづくりをするには、目の
前のニーズや慣習に左右さ
れるのではなく、市民にとっ
て思い出のある場所をつく
り、まちへの愛着を育てる
ことが大切です。それによっ
て人口の流出を抑え、継続
して行えるまちづくりに取
り組むべきです。

日本でも人口減少問題が叫
ばれる中、本市も例外では
なく、何の対策も講じなけ
れば人口は100年後には
16万人まで減少してしま
います。
本市は人口が多く、さま

平日は会社勤めをしてい
ますが、土日の空いた時間
を利用して、「在宅ワーク」
をしています。シングルマ
ザーとなり、会社勤めを始
めた当初、子育てのため会
社に迷惑を掛けるのでは、
という不安もありました。



市総合政策部 地方創生戦略推進官
田中 教夫

何の対策も講じなければ 松山の人口は16万人に

さまざまなことに目を配らな
ければならないという難しさ
はありますが、多様性があ
るからこそ住みやすさがあ
るともいえます。人口減少
に歯止めをかけ、今と同じ
ような暮らしを次世代に残
していくには、100年間
リレーでつないでいかなけ
ればなりません。
今後は行政としてもでき
るだけ支援をしつつ、市民
や事業者などの皆さんと
もにこの問題に取り組んで
いきたいと思ひます。

松山には多くの魅力があ
りますが、意外と地元の人
はその魅力に気付いていま
せん。自分のまちに対して
無関心になるのではなく、
その魅力をみんなで共有・
発信し、人とまちをつなげ
ていくことで、「この地に住
みたい」「住み続けよう」と
いう人が増えるのではない
でしょうか。



株式会社
多賀 真理さん

多様な働き方ができれば、 誰もが安心して生活できる

そんなとき、先輩訓練生の
勧めで「在宅ワーク」とい
う働き方に会いました。
特に女性は外で働くこと
が困難になったときに、多
様な働き方ができれば収入
の柱を増やすだけでなく、
誰もが安心して生活できる
はずです。
今後は、自分の働く背中
を見て後に続く人が出てく
るように、「在宅」という働
き方が浸透し、採用する企
業が1つでも増えるように
今の働き方を続けていきたく
いです。

100年後、松山は、生き続ける。
～私たちは行動します。
愛するふるさとを
次の世代につなぐために～



松山創生人口100年ビジョン・先駆け戦略
詳細はホームページを確認
<http://www.matsuyama-life.com/>
またはこちらから

企画戦略課 ☎948-6943 ・ FAX 934-1804